中国における新教育課程と美術教育について

福田　隆眞・麻　麗娟・段　薇清・山田　晃子・李　金定

On the New Curriculum and Art Education in China

FUKUDA Takamasa, Ma Li Juan, Duan Wei Qing, YAMADA Akiko, Li Jin Ding
(Received July 30, 2004)

キーワード：中国　美術教育　九年一貫教育課程　素質教育

はじめに

現在、中華人民共和国（以下、中国）は素質教育という教育改革が進められている。それは1999年の教育政策として「素質教育を前面に進める教育改革」と題されて改革が行われている。国民の資質向上のために創造精神と能力を育成し、全面的に発展する人間の育成を目的としている。このことに関連し、美術教育の教育課程も移行期にある。ここでは全日制の教育課程全般の内容と美術教育の教育課程を紹介し、美術教育の新しい考え方や取り組みを見ていく。この教育課程は現在はまだ試行期間であり、2005年に全国的な実施をする予定である。

1　義務教育の教育課程について

まず2001年11月19日に中国の教育部から通知された「義務教育課程設置実験方案」(注1)に基づいて、義務教育段階の教育課程全般の内容を見ていく。これは素質教育の方針を基に義務教育の基本的性格を表すものであり、後段の美術教育の内容を考察する上で必要である。学生（初等教育、中等教育、高等教育の全ての被教育者の総称）の心身の発達、社会進歩、経済発展、科学技術の進歩などを考慮して、学生の全面的発達を促そうとするものである。以下には目標、原則、内容説明を紹介する。

（1）義務教育課程の目標

これは中国共産党の教育方針を貫くもので、時代の要求を表している。学生に愛国主義・集団主義精神を持たせ、社会主義を愛させる。中華民族の優秀な伝統・革命の伝統を受け継がせ、発揚させる。社会主義民主法制に対する意識を持たせる。国家法律・社会道徳を順守させ、正しい世界観・人生観・価値観を形成させる。社会的責任感を持たせる。そして、人民に奉仕する。創造精神・実践力・科学と人文の素養・環境意識を持たせる。生涯学習のための基礎知識・基本技能と方法を持たせる。心身ともに健康な体を養う。健康的な審美眼と生活習慣を育成する。理想・道徳・文化をもち、法律を守る人間を形成する。

（2）義務教育課程の原則

この教育課程は、バランス、総合性、選択性を原則としている。以下のように説明されている。

①バランスある課程

道徳・知恵・健康・審美眼などを全面的に発達させるために、バランスある課程をつくるべきである。地域や学校の実状に従い、また学生の要求によって授業を調整することができる。学生の心身発達基準と科学知識との内在する論理によって、九年義務教育段階の課程を設計する。すなわち、年齢によって児童の要求と能力は異なるので、課程の種類も低学年から高学年と徐々に増加すべきである。

②総合性ある課程

それぞれの課程は、科学知識・社会生活・学生経験に整合性を有するべきである。従来の科学知識だけを強調することから変わるべきである。

１－２年：道徳と生活の課程、

３－６年：道徳と社会の課程で、子供の生活範囲が徐々に家庭から学校・社会へ拡大することに適応する。そして、子供の経験は常に豊富になり、社会性は徐々に発達する。

３－９年：科学課程で、生活経験から、探究の過程を体験させる。科学の学習方法を習得させる。科学的精神を育成する。

１－９年：芸術課程で、学生に多様な芸術を体験させる。審美趣味を高める。

総合実践活動を増設する。これには情報技術教育・研究学習・地域への奉仕・社会実践・労働・技術教育が含まれている。実践活動によって、創造的精神・実践力・知識を活用して問題を解決する能力や社会的責任感を育成する。

③選択性ある課程

国家は課程標準を制定する。それによって義務教育の質量を保証する。授業比率を定める。それによって、地方・学校・学生が課程を選択する可能性を提供する。地方によって特徴ある学校を創設することを奨励する。

九年義務教育の基本要求に到達した上で、農村普通中学校は、「緑色証書」教育を試行する。農村の特徴ある課程を形成する。都市に対して、徐々に職業技術課程を開設する。

（3）教育内容の教科の配置

以下に９年間の義務教育の各学年に配置された教科名を記す。これらの授業は１年間に35週間行われる。また、教科「総合実践活動」は、情報技術教育、研究学習、地域への奉仕、社会実践、労働教育、技術教育が含まれている。

一学年　道徳と生活　国語　数学　体育　芸術　学校裁量（１週間の授業時間26時間）

二学年　道徳と生活　国語　数学　体育　芸術　学校裁量（１週間の授業時間26時間）

三学年　道徳と生活　科学　国語　数学　外国語　体育　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間30時間）

四学年　道徳と生活　科学　国語　数学　外国語　体育　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間30時間）

五学年　道徳と生活　科学　国語　数学　外国語　体育　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間30時間）

六学年　道徳と生活　科学　国語　数学　外国語　体育　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間30時間）

七学年　思想と道徳　歴史社会　科学　語学　数学　外国語　体育と健康　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間34時間）

八学年　思想と道徳　歴史社会　科学　語学　数学　外国語　体育と健康　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間34時間）

九学年　思想と道徳　歴史社会　科学　語学　数学　外国語　体育と健康　芸術　総合実践活動　学校裁量（１週間の授業時間34時間）

（４）義務教育課程の説明

九年一貫の義務教育について全体的な運用に関して以下のように述べている。(注2)

① 省級教育行政部門は、各地域の社会・経済・文化の実状によって、各課程計画を制定することができる。またこの部門は学年総授業時間と週の授業時間を、国家に定められる範囲で調整できる。教育部により地方課程、学校課程の管理・開発に関する意見によって、省の地方課程、学校課程の管理・開発に関する具体的な要求を教育部に提出する。民族学校・複式授業・簡易小学校などの学校の課程について、省級教育行政部門が独自に決めることができる。

② 毎学年授業時間35週である。また各学校は状況によって２週間を自由に裁量できる。例えば、学校の伝統的活動、文化祭、運動会、ピクニックなどのために使用することができる。試験のために復習をする時間を２週間充てることができる。中学校最終学年では、卒業試験があるため、復習のためにさらに２週間増やすことができる。休暇は、冬休み、夏休み、国家法定祝日の総和で13週間である。

③ 朝会、クラス会、科学技術・文化・体育などの活動を、学校は独自に計画を立てることができる。

④ 総合実践活動は国家に規定される必修の授業である。具体的な内容は教育部の要求にもとづき、地方と学校が独自に開発する。

⑤ 小学校の課程は総合課程を主とする。中学校は総合課程を主とするか、あるいは分科課程を主とするかは、地方と学校に任せる。

⑥ 思想・道徳教育、環境、健康、国防、安全などの教育が各課程に内包されるべきである。

⑦ 健康第一の原則を貫くべきである。１－６年：体育課程、７－９年：体育と健康課程。

⑧ 小学校で英語を開設するならば、小学校の３年生からである。中学校の外国語の授業では、英語・日本語・ロシア語などから一種類を選ぶ。外国語学校の場合は、第二外国語を開設することができる。民族地域の小中学校における外国語授業の場合は、省級教育行政部門が決定する。

2　美術教育の教育課程の基本理念

2001年の中国の美術教育課程標準によって、美術教育の新しい教育内容の特徴、基本的考え方を述べる。(注3)　この教育課程の改訂によって、教科の性質と価値、理念および考え方の構想を示している。今回の改訂は美術教育の内容も大幅な変更がありそれは素質教育

に関連する改訂であるといえる。以下にその内容の紹介をする。

（1）教科の性質と価値

美術課程は人文的な性質を有し、学校教育の情操教育の主要な役割を担っている。九年義務教育段階において学生は芸術課程を必修とする。芸術教科は素質教育を実施する過程で重要な機能を有している。

九年義務教育段階の美術教育の価値は以下の点で体現している。

① 学生の情操を陶冶し、審美眼を高めること

現代社会における科学技術の発展に対応して、人間の豊かな情操のバランスが必要とされてきた。情感は美術の基本的な特質であって、美術学習活動の基本的特徴でもある。そして美術教育は学生の情操を陶冶し、審美力を高め、自然や生活に対する愛情や責任感をもつようにする。そして、自然環境を尊重し保護する態度及び幸せな生活を創造する願いや能力を培う。

② 学生に文化の継承や交流することを促すこと

美術は人類文化の最も古く最も重要な歴史的財産のひとつである。美術で感情や思想を伝達することは人類歴史の重要な文化的行為である。現代社会における、情報化の発展に従って、映像は生き生きとした情報キャリーとしてわれわれの生活にますます多様に現れてきた。美術教育の学習を通して、学生が美術の媒体や形式を理解することは有益である。また、視覚言語の理解により、さらに情報の交流を促し、積極的に文化の継承や交流に参加して、文化の発展に寄与することができる。

③ 学生の感知力や形象による思考力を発展すること

感知は思考の必然な前提である。形象による思考は重要な思考方法のひとつである。学校のほとんどの教育課程では、抽象的なことを基礎としている。美術課程では学生に実際の物事や環境に触れさせて、学生の感知力を発展することに有益であるし、思考に豊かな養分を提供できる。美術課程は学生の形象の思考力を徐々に培い、総合的思考力を高めることができる。

④ 学生の創造力や技術意識を形成すること

知識を重視する時代において、創造力は社会の構成員の重要な資質である。この課程は美術教育課程の情趣、表現活動の自由、評価標準の多様性など、創造活動に適する環境を提供している。美術課程で培った創造力は学生の将来の仕事や生活に積極的な影響を与える。

技術活動は人類社会のもっとも基本的な実践活動である。美術課程は学生に技術の基本的方法を提供している。学生が実践することは有益である。

⑤ 学生の個性を形成することや全面的な発達を促すこと

個人の個性を尊重し保護することは現代社会の基本的特徴である。美術の学習過程で、美術の学習内容や方法の選択は、必ず学生の個性に影響を与える。美術課程は学生が共同社会の価値観を形成することを導くと同時に、学生の個性を可能な限り発達させる。

人間の全面的な発達は人類が探求する教育思想である。美術課程は美育の重要な分野として、この理想の実現を推進することだけではなく、感情と理性、知能や体力の育成も含まれている。そのため、人間の全面的な発達を促す点で、独自の作用があるのである。

（2）基本理念

① 学生に基本的な美術的素養を形成させること

義務教育段階において美術教育を実施することは、学生には美術を学習する能力があり、そして発達する可能性を持つと信じている。美術課程は素質教育に対応して、学生全体に対し、学生の発達をもとに人文的精神や審美力を培い、健全な人格や全面的な発達を形成するために、基礎を定めている。そのために、学生の発達に有益で基礎的な美術の知識や技能を選択し、過程や方法を結びつけ、課程の基本的内容を構成するのである。同時に、課程の内容の段階性を重視し、様々な地域の学生の差異に応じなければならない。

② 学生が美術学習する興味を呼び起こすこと

興味は美術学習の基本動機である。美術教育の独自の魅力を充分に発揮し、課程内容と異なる年齢段階の学生の感情や認知に適応し、多様な課程内容と教育方法で、学習の興味を呼び起こす。

（3）考え方の構想

1）課程標準の構成内容を充実させ、明確な説明をすること

「標準」は主に以下の部分で構成されている。すなわち、前言、課程目標、内容標準、実施提案などである。美術課程改革の背景、課程の性質、課程の基本理念と課程構想の考え方が明確に述べられている。そして、課程の総目標と段階目標、内容の説明と内容標準、授業の提案、評価提案、課程資源の開発と利用、教材の編纂提案も述べられている。

2）学生の学習活動の領域を分け、学習活動の総合性や探究性を高めること

新しい課程改革は、従来の単純な学科知識システムで構成された課程構想の考え方を変えるべきである。学生の素質を発達させることを出発点として、美術の学習活動によって学習領域を分けることである。そのために、この「標準」は①“造形・表現”、②“設計・応用”、③“鑑賞・評論”、④“総合・探索”四つの学習領域に分けられた。

美術の学習活動は創作と鑑賞の二つの類型に分けられる。創作と鑑賞は外在化と内在化の両方に関係があるにも関わらず、創作は外在化の傾向に偏っており、鑑賞は内在化の傾向に偏っているのである。美術学習は操作性が強いため、創作活動に比重が置かれている。そして、「標準」で創作活動はさらに“造形・表現”、と“設計・応用”に分けられている。“造形・表現”は美術活動の基礎であり、活動方法は自由な表現や大胆な創造及び感情と認識を強調している。“設計・応用”は発想を重視するだけではなく、活動の効果も重視するのである。つまり、前者は自由を重視し、後者は効果を重視するのである。“鑑賞・評論”は体験や鑑賞と表現などの方法で知識を内在化し、審美的な心理を形成させることを重視している。

総合学習は世界の教育の発展のための新しい特徴であるが、教育改革の難問でもある。それに対応するために、「標準」は特に“総合・探索”を設置した。学生の総合的実践力と探究力を発達させるため、この学習領域で前述の美術学習の領域間、美術と他の学科、美術と現実社会など諸方面の総合的な活動を提供している。

以上の四つの学習活動は各学習領域が各々の特徴を持つだけではなく、互いに融合し親密な関連を持ちながら、開放性のある美術課程を形成している。

3）教師の裁量を増やすこと

義務教育段階の美術教育はできるだけ義務教育の基本的特徴を体現し、各学生が美術教

育を受ける権利を保護するべきである。そして、全ての学生は美術学習に参加し、各学生の発達を促進させるのである。従って、本「標準」は指導性の内容標準を制定し、具体的な教育活動案も提示し、内容標準によって、学生が発達するように指導する。各々の地域の教師は現地の状況によって、これらの教育活動提案を選択し、新しい教育活動を創造する。

4）「標準」を実施するうえで実行性を注意すること

美術教師は本「標準」のもっとも重要な理解者であり実施する役割を持っている。教師は美術課程改革の主旨を理解するため、本「標準」は新しい観念や方法に対して、具体的で、操作性のある例を提供している。

3　美術教育の内容

前述の課程標準に基づいて、以下に具体的な美術教育の目標、内容を述べる。(注4)

（1）課程目標

1）総目標

学生は個人や共同制作の方法で、様々な美術活動に参加し、様々な道具や材料、制作過程に触れ、美術鑑賞と評論の方法を勉強し、視覚、触覚と審美経験を豊かにし、美術活動の楽しみを体験することで、美術学習の永続的な興味を獲得する。そして、基本的な美術言語を伝える手段と方法を理解し、自分の感想や思想を表現し、環境と生活の美化を心がける。美術学習の過程で、創造力を喚起し、美術の実践力を発達させ、基本的な美術の素養を形成し、高尚な情操を陶冶して、人格を完成する。

2）段階目標

本「標準」の段階目標は①“造形・表現”、②“設計・応用”、③“鑑賞・評論”、④“総合・探索”の四つの分野に分け，以下のような段階的な目標を示している。

①　第一段階（1，2学年）

多種の道具を試み、紙及び身近なメディアで、見る、描く、作ることを通して、大胆に自由に自分の見聞、感想を表現し、造形活動の楽しさを体験する。身近にある様々なメディアを使ってみる。見る、描く、作ることを通して、簡単な構成と飾るためのデザインの楽しさを体験する。自然や様々な美術作品の形や色を鑑賞し、簡単な言葉で自分の感想を大胆に表現することができる。造形ゲームを通して、テーマのあるものやないものの想像、創作、パフォーマンス及び展示を行う。

②　第二段階（3，4学年）

形、色、テクスチュアなどの美術用語をある程度知る。様々な道具を使い、様々なメディアの効果を体験する。見る、描く、作ることを通して、大胆で自由に自分の見聞、感想を表現し、豊かな想像力と創造意欲を引き出す。対比と調和、対称と均衡などの構成の原理を学ぶ。簡単なデザインと装飾をする。デザインの制作と他の美術活動との違いを体験する。自然や各種の美術作品の形、色、テクスチュアを鑑賞する。口頭や文書で鑑賞対象を述べ、自分の感想を表現できるようにする。造形ゲームを通して、国語、音楽などの内容と結びつけ、美術創作、パフォーマンスと展示を行い、自分の創作意図を発表する。

③　第三段階（5，6学年）

形、色、テクスチュアと空間などの美術用語を使い、自分なりの道具と材料で絵や立体造形に表現する。自分の見聞や感想を記録し、構想力、創作力を伸ばし、自分の考え方や感情を伝える。対比と調和、対称と均衡、リズムとメロディーなどの構成の原理を使い、簡単な創意やデザインやメディアの方法を理解し、デザインと装飾を行い、身近な環境を美しくする。自然美と美術作品の材料、形式内容などの特徴を鑑賞し理解する。描写、分析などの方法によって、美術表現の多様性を知る。簡単な美術用語を使い、美術作品に対する自分の感想と理解を表現することができる。学校と地域の活動を結び付け、美術と科学の課程及び他の課程の知識、技能を結び付けることで、計画、制作、展示などを行い、美術と環境及び伝統文化の関係を体験する。

④　第四段階（７－９学年、中学校１－３学年）

形、色、テクスチュア、空間、明暗などの視覚言語を活用し、材料、用具を適切に選択し、絵画と彫刻の様式によって様々な創造方法を探究する。個性的な表現を発展させ、自分の思想や感情を伝達できるようにする。デザインの種類と機能を理解する。対比と調和、対称と均衡、リズムとメロディー、多様性と統一などの組み合わせによる原理を活用し、材料の特徴を生かしてデザインする。生活を美化するとともにデザインの意識を養う。自然美、美術作品の様式、内容、使われた材料などをあらゆる角度から鑑賞し、認識する。中国と外国における美術の発生と発展について理解する。人類の文化遺産を大切にする気持ちを育成する。美術作品、美術現象などについて評論する。調査によって、美術や伝統文化と環境に関係があることを理解する。美術の手段で記録し、計画し、制作する。しかも他の教科の勉強を通して、共同のテーマや共通の原理を理解できる。

（２）　内容標準

内容標準は本「標準」の中でもっとも具体的で、豊かな部分である。

１）本「標準」は美術学習活動方式によって、四つの分野に分けられた。つまり、①“造形・表現”、②“設計・応用”、③“鑑賞・評論”、④“総合・探索”である。九年義務教育段階の美術学習は四つの段階に分けられた。第一段階：１－２学年；第二段階：３－４学年；第三段階：５－６学年；第四段階：７－９学年である。

２）四つの学習領域は授業総時間での割合にどのように処理するか、提案すること。

３）内容標準の構成部分及び互いの関係について説明すること。

４）四つの学習領域の範囲、意義、学習目標及び教育方法について説明すること。

５）各段階で各学習領域の内容標準や授業と評価に対する提案すること。

内容の説明

本「標準」の四つの学習分野における割合は具体的な規定がない。各地域で現地の状況によって自由に計画を立てることができる。

各学習領域は標準、教育活動における提案と評価における提案に基づいて構成する。標準は総目標に適応する関係を表している。教育活動における提案は標準に対して、具体的な内容と学習方式を提出している。この具体的な内容と学習方法について、各地域は現地の状況によって自由に計画を立てることができる。評価における提案は標準に関する要点を述べている。

①「造形・表現」学習分野の説明

「造形・表現」は多種の材料や手段で、造形の楽しさを体験し、思想や感情を伝達する学習分野である。ここでの造形は描画や彫刻などの手段で視覚芸術創作の活動を行うことである。表現は美術創作活動を通して、観念や感情を伝達することである。造形と表現は美術創作活動の二つの面であるが、造形は表現の基礎で、表現は造形の過程や結果で実現するのである。本学習分野は低学年段階で感じることや体験や遊びを強調し、見る、描く、作る、遊びを一体的に融合し、教科の限界を明確にしないで拡大することができる。

「造形・表現」分野の学習活動を通して、学生は以下の目標を達するようにする：

第一、線、形、色彩、空間、明暗、質感などの基本的造形要素を知り、理解し、対比と調和、対称と均衡、リズムとメロディーなどの構成の原理を使い、造形活動を行うことができる。想像力や創造力を発達させる。

第二、各種の美術の媒体、技能と制作過程の探索や実験を通して、芸術の感知力や表現力を発達させる。

第三、造形活動の楽しさを体験し、美術学習に対する永続的な興味を持つ。

「造形・表現」分野の設置は学生の学習活動を重視し、教科の内容を強調することから変えようとするものである。本学習分野は単純に知識や技能を伝達することが目的ではなく、異なる年齢段階の学生の特徴や美術学習のレベルに対応し、積極的に造形表現に参加するように学生を励ますのである。教育活動で、学生に多種の材料や道具を試みさせ、多種の造形方法を探索するのである。

②「設計・応用」学習分野の説明

「設計・応用」分野はある材料や手段で、ある目的や用途をめぐって、デザインや制作を行い、情報交換をし、環境や生活を美化し、デザインの意識や実践力を培う学習分野である。ここのデザインは学生の生活に関する現代デザインの基礎と伝統工芸を含んでいる。

「設計・応用」分野を通して、学生は以下の目標を達するようにする：

第一、デザインと工芸の基礎知識と方法で、目的のある構想、デザインと制作活動を行い、創造力を発達させる。

第二、多種の材料の特性を体験し、合理的に多種の材料や道具で制作を行い、手で作る能力を高める。

第三、芸術の美感と機能的なデザインによる統一を理解し、身近な生活や環境に対する審美力を高め、生活を美化する思いを喚起させる。

第四、制作する前に常に予想や計画する習慣及び真剣に持続する態度を身に付ける。

義務教育段階での「設計・応用」分野の目的は学生にデザインの意識や手で作る能力を培うことである。そのために、この分野の教育で、学生の認知的な発達に従い、学生の出発点を見極め、知識の専門化を避ける。教育内容の選択は学生の生活に関わるもので、興味や応用性を高め、創造の意欲を保持する。

③「鑑賞・評論」学習分野の説明

「鑑賞・評論」分野は学生が自然美や美術作品などの視覚世界に対する鑑賞と評論を行い、徐々に審美力を形成し、鑑賞力を高める学習分野である。鑑賞で審美体験ができるほかに、言葉や文字で自然美や美術作品などの視覚世界に対する体験や認識、理解を述べる。

「鑑賞・評論」分野の学習活動を通して、学生は以下の目標を達するようにする：

第一、「鑑賞・評論」活動に参加する興味を呼び起こす、多種の角度から自然や美術作品の材料、形式と内容特徴を鑑賞、認識することを学習する。中国と外国の美術発展の歴史を理解する。

第二、次第に視覚体験力を高め、言葉、文字と形で自己の体験や認識を表現する基本方法を把握し、健康な審美観を形成し、審美力を発展する。

第四、優れた民族芸術や文化遺産を大切することや世界多元文化を尊重する態度を形成する。

「鑑賞・評論」分野の教学は学生の積極的に参加することを重視し、学生の主体性を呼び起こし、今までの教え込みを避け、教学方式の多元化を積極的に模索する。同時に、美術を鑑賞する方法を学生に把握させ、鑑賞力や評論能力を高める。そしてそれらは授業評価の重要な内容である。

評論方式は様々である。そして違う程度を持つ（例えば、学生が一緒に芸術を議論することは評論のひとつである）。各学生は自然や美術作品などの視覚世界に自己の評論することができる。

④「総合・探索」学習分野の説明

「総合・探索」分野は総合の美術活動を通して、学生が主体的に探索、研究し、総合的に問題を解決できる学習分野である。そして、三つの意味がある。1）美術各学習分野（「造形・表現」「設計・応用」「鑑賞・評論」）を一体化すること。2）美術と他の学科を互いに総合させること。3）美術と社会を関連させること。この三つの意味はある程度横断的である。

「総合・探索」分野を通して、学生は以下の目標を達するようにする：

第一、美術科と他の学科との違いや関連を理解し、各教科の知識をもとに自由に美術活動を行い、多種多様な形式で発表する。

第二、美術と生活の関係を認識し、総合的に問題を解決する能力を養う。

第三、視野を広げ、想像の空間を開拓し、未知の分野に探索する意欲を呼び起こし、探究の楽しさや達成感を体験する。

「総合・探索」分野の教学は美術の各分野、美術と他学科、美術と社会の関連を、どこに定めるかが、教師たちに要求される。それによって、多種多様な課程を設計する。

まとめ

本稿は中国の新しい教育課程の紹介である。そこから読み取れることは美術教育の方向性である。その特徴として以下のようなことがあげられる。

① 美術表現の多様性を育成することを目的としている。特に小学校での遊びの体験や材料体験などを導入している。

② 九年一貫の教育課程により、小学校と中学校の教材の関連性が強くなり指導に反映することができる。

③ 学習内容が児童生徒中心とし主体性を重視しようとしている。

④ 美術の学習分野を新しくし、「造形・表現」では絵画や彫刻を含んだ幅広い表現を設

定している。「設計・応用」はデザインを中心として生活や産業に関連するものである。「鑑賞・評論」では鑑賞能力や分析能力を育成しようとしている。「総合・探索」は科学知識、社会生活、学生経験などを総合しながら美術を扱うものである。これらは創造性の教育を目指した新しい学習である。

注

1　中国教育部基礎教育センター「義務教育課程設置実験方案」の通知　2001年11月19日
2　同上1
3　中国教育部基礎教育センター　「美術課程標準」(実験稿) 2001年7月
4　同上3